令和４年度　全国学力・学習状況調査の結果から（我孫子第二小）

１．全国学力・学習状況調査の結果について

＜国語＞

○「話すこと・聞くこと」「読むこと」に関する問題の正答率は，全国平均とほぼ同じである。

▲文章を整えたり，良い点を見つけたりするなど「書くこと」に関する問いや，漢字を文中で正しく使うなど「言葉の特徴や使い方に関する事項」，配列に注意して書くなどの「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題の正答率は低い。

＜算数＞

○他の領域と比べると，「データの活用」に関する問題の正答率は全国平均とほぼ同じである。また，選択式の問題の正答率はやや高い。

▲「数と計算」「変化と関係」に関する問題の正答率は低い。また，短答式の問題の正答率が低い。

＜理科＞

○「知識・技能」に関する問題の正答率は全国平均とほぼ同じである。

▲「思考・判断・表現」に関する問題や記述式の問題の正答率が低い。

＜児童質問紙＞　○→全国平均を上回った項目　▲→全国平均を下回った項目

○国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか

○理科の授業では，自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

→上記の質問で肯定的な回答をした児童の方が正答率が高くなっている。

○難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか　　○読書は好きですか

○いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思う。

▲毎日，同じくらいの時刻に寝ている。　▲自分には，良いところがある。

▲将来の夢や目標を持っている。　▲学校の授業以外の１日あたりの学習時間

２．成果と課題に対する今後の取組について

＜成果＞

・国語の「話すこと・聞くこと」「読むこと」に関しては，文章の読み取りの指導の積み重ね，少人数による話し合いや１分間スピーチなどの意図的な対話の場の設定の成果と考えられる。

・算数の「データの活用」に関しては，「表」「割合」「円グラフ」などに関する効果的な指導，「表の意味」や「データの特徴」「必要な情報」などを問う場面の設定が功を奏したと思われる。

・理科の「知識・技能」に関しては，意欲的に実験や観察に取り組ませる教師の支援が，児童の理解につながったと考えられる。

・児童質問紙の結果から，これまでの学校や家庭での指導，支援の積み重ねにより，「生活習慣・学習習慣」「規範意識」の高まりが少しずつ見られる。

＜課題と今後の取組について＞

・国語に関しては，簡単な条件を提示して文章を書く経験を積み重ねる。

・また，ドリルや小テスト等による漢字の繰り返し指導の継続に加え，理解度の低い漢字に重点化して学習していく。

・算数に関しては，少人数指導担当（本校１名在籍）と連携し，算数科の指導の充実を図る。加えて，週１回の「算数タイム」（朝）を全校で実施し，算数の補充指導を行う。
・また，例題で解法の見通しをもたせ，類題を自力解決させる。概数では「切り捨て・切り上げ・四捨五入」の違いに着目できる問題，割合では「日常生活の具体的場面に即すこと」「１当たりの考え方（基準量・比較量）」「百分率の意味」に着目できる問題にする。
・理科に関しては，本校独自の理科専科教員の強みを生かして，専門性を生かした指導を行う。また，学級担任と専科教員が連携した理解度向上のための手立てを検討する。
・各種学力調査の分析や改善等を対象学年だけでなく，全学年で行う。出題内容と関連のある学年を中心に，設問ごとに分析等を行い，学校全体で共有する。
・今後も児童が自己肯定感をもって生活・学習できるよう，児童への声かけ，頑張りの称賛，学習過程の紹介などを日々意識して行っていく。